

宮田南小学校通信

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年も学校教育に関して、これまで同様の、保護者の皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今、学校の玄関では、暮れに幼稚園の古野園長先生が生けてくださった蠟梅(ロウバイ)の花が満開になり、甘い香りがいっぱいです。

昨日の始業式では、子どもたちに次のようなお話をしました。

最初に、全員で新年のご挨拶をしました。その後、「楽しい冬休み、そしてお正月を過ごすことができましたか?」と尋ねると、子どもたちから「はい。」という返事がありました。

平成三十一年は、新しく生まれ変わる年です。現在の「平成」から新しい元号になります。そして、この新しい元号が発表されるのが4月1日、そして5月1日から生まれ変わることも、子どもたちはよく知っていました。

そこで、こんな新しく生まれ変わる年に、自分の目標を、(5・6年生には新年の抱負を)立ててもらいたいと伝えました。どんな目標でもかまいませんが、自分にとってちよつとだけ難しい目標を立てるように言いました。

また、「今年は何年か知っていますか?」と尋ねると、すぐに「亥(イノシシ)年」と返ってきました。

イノシシは走り出したら、急には止まらないということから、亥年にはよく「猪突猛進」ということわざが使われますが、これは、周囲の人のことや状況を考えずに、一つの目標を目指して猛烈な勢いで突き進むという意味です。この「周囲の人のことや状況を考えずに」では困ります。

それで、私は子どもたちに次のことわざを紹介しました。

勇往邁進

「ゆうおうまいしん」、どんな困難にもひるまずに、目的に向かって、勇敢に前へ突き進むという意味です。

そして、日本の科学技術は年々進化しています。AIといった人工知能や、今まで人間が働いてきた仕事でも、ロボットが働くようになってきています。昨年の暮れには、近い将来、今地上を走っている自動車も、空を飛ぶように

なるというニュースもありました。そんな、私たちにとって予測困難な時代に、子どもたちは生きていくことになりました。

そんな子どもたちには、まず周りの人と協力して、チームを組んでいろいろなこと挑戦していく力をつけて欲しいと話しました。それには、たくさんの知識を身につけておく必要があります。その一つが、学校の勉強であり、行事を通して力をつけていくチーム力や運動会で学んだ4つの気で

囲碁の世界では、皆さんと同じ9歳の小学生 仲邑 堯(ナカムラ スミレ)さんがプロ棋士として誕生するニュースがありました。堯さんは3歳から囲碁をしていました。このことから、一生懸命努力していれば、必ず実を結ぶことがわかります。

そして、最後に、子どもたちにもう一度、今年はずつとだけ難しい目標に向かって、毎日努力をしてみるように話しました。

ところが、この話には、修正があります。

実は、私、堯さんを将棋と話してしまいました。気がついたのは、職員と、さすがに5・6年生、式が終わると同時に、子どもたちが「囲碁ですよね。」と駆け寄ったとか・。お恥ずかしい!!!

新年早々 やっちゃいました。